

エンカウンター（ENCOUNTER）

第 67 号

平成19年11月20日

編集・発行人 〒224-0015 横浜市都筑区牛久保西2-14-28 山口周三

電話 045-912-1960

金田福一「日々の糧365日」より（6）

11月1日

イエスは彼らの信仰を見て、中風の人に、「子よ。しっかりしなさい。あなたの罪は許された。」と言われた。（マタイ9・2）

イエスさまは、ご自身の愛の光の中に入ってきた人に向かって、「子よ。しっかりしなさい。あなたの罪は赦された」と言われました。その時から、人間の新生と、病のいやしという奇跡が始まるのです。4人の友にかつがれてきた中風の人にとって、まず必要なことは、魂の救いでありました。彼が救われたのは、彼自身の信仰によってではなく、彼をどうしても、イエスさまの所に連れて行こうとした4人の友の、信仰と友情でありました。あなたの愛と信仰が、あなたの友を救うことができるのです。「無理にでも人々を連れてきなさい」と、イエスさまは言われます。（ルカ14・23）

1 1月3日

天の父が、求める人たちに、どうして聖霊を下さないことがありましょう。（ルカ 11・13）

求めているならば、必ず聖霊を与えられます。イエスさまが分ります。あなたにいのちを与えて下さるイエスさまです。与えられていると分ります。十字架が分ります。「私のために十字架にかかって下さった」と分ります。聖霊を受けたならば、もう昨日までのあなたではありません。昨日までのあなたではありません。昨日までの自分を、今、向こうがわに見ることができます。なぜ、昨日まで、確信が無かったのでしょうか。イエスさまが分らなかったからです。イエスさまが信じられなかったからです。しかし、今、イエスさまは、すぐそばに居て下さいますので、「信じる」と言う必要もないほどに、心に満ちるものは、「ありがたいなあ」という、感謝の気持ちだけです。

1 1月5日

互いに赦し合いなさい。主があなたを赦して下さったように、あなたがたもそうしなさい。（コロサイ 3・13）

キリスト者にとって、人を赦すということは大切なことです。しかし、「赦す」という高い所に居てはいけません。罪よりほか何も無い人間が、人を「赦す」という高い所に、どうして立っていいでしょう。しかし、キリスト者もまた、誤解されることがあり、憎まれることがあります。それらの出来事は、自分を憎む者をも愛させようとして、神がなされたことであり、人を赦し得ない自分の傲慢さを教えられます。それらの出来事に際して、おのれの傲慢と愛の無さを、相手の前に頭を垂れて詫げる時に、気づかずして、初めて、相手を赦し得ているのです。「赦す」とは、実は「赦しを乞う」ことなのです。

11月9日

すべて、疲れた人、重荷を負っている人は、私のところに来なさい。わたしがあなたがたを休ませてあげます。（マタイ 11・28）

とにかく礼拝においでなさい。苦しみに取り乱れたままでもいいのです。イエスさまは慰めて下さいます。力を与えて下さいます。苦しみに耐えさせて下さいます。どうしたらいいかわからないままでもおいでなさい。生きる道を、イエスさまが教えて下さいます。イエスさまは決して、あなたをお叱りになることはありません。あなたの苦しみを、イエスさまは全部ご存じです。信仰は、生きていく力です。しかし、あなたの力ではありません。イエスさまのお力です。礼拝に来ることが信仰です。み言を聞くことが信仰です。イエスさまにお話しすることが信仰です。あなたにも、信仰はあるではありませんか。

11月11日

見よ。わたしは、戸の外に立ってたたく。だれでも、わたしの声を聞いて戸をあけるなら、わたしは、彼のところにはいって彼と食を共にし、彼もまた私と食を共にするであろう。（黙示録 3・20）

イエスさまは、御臨在の確信を、あなたにも、「与えよう、与えよう」としておられます。しかし、「私に欠けているものは何か」ということに、あなたが気づかないで、不安や苦しみの中に生きていたとしたら、イエス様は、どんなにお悲しみになるでしょう。戸の外に立って叩いておられるイエスさまは、あなたの心の扉を、叩き続けておられるのですよ。あなたは不幸に会われました。今も不幸でしょう。どうにもならないと、思っておられるのでしょうか。しかし、あなたと共に居て下さるイエス様に、心も家庭も、おまかせなさいませんか。イエスさまはあなたにも、喜びと平安を与えて下さいます。

11月12日

私は裸で母の胎から出て来た。また裸で私はかしこに帰ろう。主は与え、主は取られる。主の御名はほむべきかな。(ヨブ1・21)

ヨブの幸福を奪うために、役割を果たしたのはサタンです。しかし、サタンも、神に用いられたのであって、サタンのわざの背後には、神の意思がありました。ヨブは、サタンの攻撃を、神のみ旨として受け取り、「主は与え、主は取られる。主の御名はほむべきかな」という信仰を、崩すことはありませんでした。どんなに悲しい出来事が、日毎に訪れてこようと、神のみ旨でないことは、何一つとしてないのですから、感謝して受け取っていくことこそ、信仰者のあり方です。「サタンに攻撃された」と動揺するとしたら、それこそサタンの思うつぼです。主の御名をほめる姿勢を崩さぬことこそ、勝利なのです。

11月13日

お互いに親切にし、心の優しい人となり、神がキリストにおいてあなたがたを赦してくださったように、互いに赦し合いなさい。

(エペソ4・32)

自分と考えの違う人、自分の変え得ない人を、そのままに赦すべきです。赦すことは、手を引くことですが、決して、冷たく放任することではありません。暖かい愛なのです。私たちが兄弟を赦す時、その時から、主の御支配と牧会が始まります。赦さないことは、ゆだねないことなのです。自分で相手を変えようとするのは、主の御支配と牧会への越権なのです。家庭も、牧会も、けっきょく赦しではないかと思えます。心の中に頭をもたげる正義感や焦燥を抑えて、主を待ち望み、主に一切をゆだねるべきです。その時から、主はみわざをあらわされるのです。

11月20日

この人たちは、婦人たちやイエスの母マリヤ、およびイエスの兄弟たちとともに、みな心を会わせ、祈りに専念していた。

(使徒 1・14)

あなたが、救いの確信を得ることにしても、教会のリバイバルにしても、最後のきめ手になるものは、祈りより他にないと思います。考えて解決される問題ではありません。神が与えて下さるものを、お受けするだけです。祈りは、お受けする姿勢です。個人にしても、教会にしても、破らなければならない殻があります。祈らせまいとするこの世の力です。教会は、祈ってはいても、頭で考えた祈りを、小さな声でしているだけです。それは、神への祈りではありません。作文です。かつて、リバイバルの起こった頃の、ある牧師の日記の一節に、「大きな声で祈れるようになった」とありました。(『釘宮辰生伝』)

11月24日

主の御前でへりくだりなさい。そうすれば、主があなたがたを高くしてください。(ヤコブ 4・10)

神さまは、ある人を用いようとなさる時、その人の罪をお示しになります。使命を与えようとなさる時、むしろ、自己に対する絶望を、お与えになるのです。罪と絶望の底に突き落とされる人は、実は、その存在の価値を、神に認められた人であると言えます。自分の罪に気づかない人間は、神さまにとって、利用価値のない人間なのです。真実に、自己に絶望する者をこそ、神は、お用いになることができます。神のみ前に引き出され、神の光を身に浴びることは、手術台の上に、乗せられるようなものです。そこにおいて、人間の罪とみにくさが、すっかり暴露されますが、しかし、そこから、一人のキリスト者が誕生するのです。

11月28日

彼らは、主の恵みと、人の子らへの奇しいわざを主に感謝せよ。

(詩篇 107・8)

イエスさま。あなたが、私たちのそばに、いつも居て下さることを、あの人にも、この人にも、分らせてあげて下さい。あなたがいつも、そばに居て下さることを悟って、「主よ、感謝します」「主よ、感謝します」と、あなたにつながってさえいるならば、こころの中に、慰めと喜びとが満ち、そのことだけで、どんな時にも、どんな所でも、感謝して生きられることを、教えてあげて下さい。私たちは、自分というものには、すっかり失望していますけれど、あなたがそばに居て下さることを信じて、「主よ、感謝します」と、感謝していさえすれば、あなたのお力が、私たちを変えて下さることを、あの人にも、この人にも、教えてあげて下さい。

11月30日

人のすべての考えにまさる神の平安が、あなたがたの心と思いをキリスト・イエスにあって守ってくれます。(ピリピ4・7)

主を信じている友よ。たとえ暴力が支配するかのようと思われる絶望的な現実立たされても、主は王なる支配者であり、あなたと共に居てくださる臨在の主でありますから、静かなる平安をもって対応しなさい。人の考えにまさる神の平安が、あなたの心と思いを守って下さると約束されています。主を信じる者は、現実の1秒1秒を、秒きざみに主にゆだねて、決して、絶望的に未来を空想するようなことはいたしません。あなたの現在も、将来も、あなた自身も、主のものであるということを、この大変な時に体験しなさい。主にゆだねる者は、必ず、主のふしぎなみわざを、見ることができず。

1 2月2日

もし最初の確信を終わりまでしっかり保ちさえすれば、私たちは、キリストにあずかる者となるのです。（ヘブル3・14）

たとえ牧師に失望しようと、教会に失望しようと、あなたの信仰は、ぐらついたり、つまずいたりするようであってはいけません。信仰とは、地上の誰かに依存することではありません。生けるキリストに信頼することです。生けるキリストとの直接の交わりによって、あなたの信仰は保たれ、成長していくのです。牧師への失望や、現実の困難は、試みであっても、それらのことによって、あなたのキリスト信頼は、いよいよ強固なものにされるべきです。地上には、いかなる慰めもないかに思われる現実であっても、それなればこそ、主は、あなたを去りたもうことはないでしょう。

1 2月7日

わたしは、あなたがたに平安を残します。わたしは、あなたがたにわたしの平安を与えます。（ヨハネ 14.27）

主は私たちと共に居て下さいます。悲しみも、不安も、主にゆだねます。私たちの心は安らかです。この平安は、主が与えて下さるものです。多忙と疲労の中にも、この平安があります。家族が重態であっても、この平安があります。近づいてくるみずからの死を迎えながらも、なおこの平安があります。主は生きておられます。私たちと共に居て下さいます。私たちの心の中から、悲しみや不安を、取り除いて下さいます。そして、御自身の平安を与えて下さいます。現実の困難や苦悩は、このふしぎな平安を与えて下さるための、神のみ旨であったと思います。わが魂よ、いつも私のそばに居て、私を助けて下さる主をあがめよ。

12月9日

「ああ、あなたの信仰はりっぱです。その願いどおりになるように。」すると、彼女の娘はその時から直った。(マタイ 15・28)

イエスさまというお方は、無邪気なお方だと思います。その信仰をお与えになったのは、ご自身でありますのに、「あなたの信仰はりっぱだ」と感心なさいました。生涯、補償や、借金の支払をしなければならぬのかと、暗然となっている友よ。あなたが救われて、顔を上げて、感謝して、その長い道のりを歩み始めるとき、主は、あなたと共に居て下さって、み言葉によって力づけて下さるだけでなく、あなたの信仰と誠実に感動なさせて、あなたに、すばらしいことをおさせになります。真っ暗な苦しみや、悲しみの道も、主が共に行って下さる時、必ず、希望の光が、見えてくるのです。

12月11日

恵みと義の賜物とを豊かに受けている人々は、一人の人イエス・キリストにより、いのちにあって支配するのです。(ローマ 5・17)

どんな時にも、どんなことをも、感謝してお受けすればいいのです。そうすれば、いつでも平安があります。自我の達成が救いではなく、キリストの御手の中に入れられることが救いなのです。そこにおいてこそ、患難をも喜ぶことができるのです。苦しみから逃れようとしたり、病をいやされようとしたりする祈りは、迷いにすぎません。耐えがたい苦しみの、その「時」にこそ、主のみ旨があり、主の慰めは体験されるのです。しかし、友のためには、いやされることを祈るべきです。主の御手をとって、友の病床にお連れする熱愛の祈りを捧げるべきです。そのような愛の祈りが、しばしば奇跡を生むのです。

12月18日

戸が閉じられていたが、イエスが来て、彼らの中に立って「平安があなた方にあるように。」と言われた。（ヨハネ 20・26）

キリスト者の心が、いつも平安なのは、努力や鍛錬によるものではありません。イエスさまが、ある日彼に来て下さったからです。そして、いつでも、彼のそばに居て下さるからです。イエスさまの、お力の中に入れられたからです。イエスさまのお力が、彼を、平安な人に、変えて下さったからです。イエスさまが、いつでもそばに居て下されば、イエスさまのみ心でないことは、何一つとして起こりません。不幸と思われるようなことさえ、キリスト者は、平安な心で、喜んで、お受けいたします。そして、はや、自分の都合で、ものを考えません。神のみ心を実践していく人に、変えられているからです。

12月23日

私たちはみな、この方の満ち満ちた豊かさの中から、恵みの上にさらに恵みを受けたのである。（ヨハネ 1・16）

主をお受けした人は、その時から、人生のあらゆる出来事を、主の恵みと感じて、「主よ、感謝します」と、お受けしていくようになります。起こってくる出来事を拒んだり、文句を言ったりいたしません。年を取ることも、病むことも、治らないことも、生きていることが人の迷惑になり、食べさせてもらったり、下の世話をしてもらったりすることも、明るい感謝の笑顔を失うことなく、一つ一つ、お受けしていくのです。「早くみ国にお召し下さい」と祈ることも、わがままにすぎません。一瞬一瞬の、いまの苦しみを、主のお恵みと、おしいたいていけることも、満ち満ちる主の恵みというものです。

12月26日

人に思慮があれば、怒りをおそくする。その人の光栄は、そむきを赦すことである。（箴言 19・11）

どんな人をも、どんな事をも、赦すべきです。さばきは神にゆだねるべきです。家庭においても、社会においても、牧会にあたって、赦し以外にないと思います。赦すことは主のみ旨です。赦すことの困難は、悔い改めようとしない人や、自分の罪に気づかない人をも、赦さなければならないことにあります。なぜ赦せないのでしょうか。それは、自分が赦されていることを忘れ、自分を義とするからです。赦すことができないのは、自己を義としているからにすぎません。また、赦すことの結果を、先取りしてはいけません。赦すことの結果を期待することは、神の領分への侵犯にすぎません。結果も、効果も考えないで、ただ赦すべきです。

12月31日

キリストが現れたなら、私たちはキリストに似た者となることがわかっています。（ヨハネ 3・2）

イエスさまのところに来て、重荷の苦勞を取り去っていただき、心に平安を与えられました。それが、マタイ 11・28 です。イエスさまのところに来た人が、平安をもち続ける方法をお示しになったのが、29 節です。信仰生活は、イエスさまと、一つのくびきにつながれて進むのです。そのうちに、イエスさまに、似てくるのです。イエスさまのように、柔和で、へりくだった人にされていくのです。柔和で、へりくだった人は、いつでも、心に平安を持っています。考えてごらんください。あなたの心に平安がなかったのは、あなたが柔和な人でなかったからではありませんか。また、へりくだった人でなかったからではありませんか。